

令和7年度から 中・高の理科教員養成はじまる

中・高の理科教員免許課程 学びの流れ(予定)

	教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等
1年次 基礎 理科、教育学の基礎を身に付ける	春 ●物理学 ●化学 ●生物学 ●地学	●教育の基礎的理解に関する科目 ●道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ●教育実習を含む教育実践に関する科目
2年次 基礎・展開 理科の専門性を高める	春 ●物理学Ⅰ ●化学Ⅰ ●生物学Ⅰ ●地学Ⅰ ●理科教育法Ⅰ 秋 ●物理学Ⅱ ●化学Ⅱ ●生物学Ⅱ ●地学Ⅱ ●理科教育法Ⅱ	
3年次 展開・応用 実習を通して実践力を修得	春 ●物理学Ⅲ ●化学Ⅲ ●生物学Ⅲ ●地学Ⅲ ●理科教育法Ⅲ ●実験(生物学・化学) 秋 ●物理学Ⅳ ●化学Ⅳ ●生物学Ⅳ ●地学Ⅳ ●理科教育法Ⅳ ●実験(物理学・地学)	
4年次 発展 4年間の学びの集大成	春 ●教育研究演習 ●教職実践演習 秋 ●卒業研究	

現在、国は新たな時代に対応できる学びを強化するため、高等教育において自然科学分野をめざす学生数をより多く確保する方針を打ち出している。こうした動きの中、教育学部では令和5年度に「数理教育コース(中高教員)」を新設。文理の枠を超えた総合知を持つ人材の育成を図ってきた。

同コースに、令和7年度より「理科」の中高教員免許課程設置を申請中だ。本学はこれまでにおよそ7000名の教員を輩出しており、とくに三重県小学校における合格者占有率は12年連続県内大学トップを堅持するなど教員養成機関として実績を重ねてきた。教育界のみならず、課題の発

一文理の枠を超えた高度人材へのニーズ

理数系教員の養成をめざし、令和5年度、教育学科に新設された「数理教育コース(中高教員)」。「数学」に加え、令和7年度より「理科」の中高教員免許課程設置を文部科学省に申請中だ。正式に認可されれば県内で2校目の理科教員養成校となる。



第101号
令和6年7月



■注目記事
カルチャー&スポーツ 2面
東西伝統校を撃破し3回戦進出
全日本学生柔道優勝大会
2年ぶり7回目の本戦出場
全日本大学駅伝東海地区選考会

地域連携 3面
県知事・伊勢市長と学生が円卓対話

イベント&エデュケーション 4面
オープンキャンパス2024を開催

グローバル 5面
台湾の中学生と交流
皇學館中学校

中高トピックス 6面
2年生が北海道修学旅行を実施
皇學館高等学校

中大連携で発展した学びに
第2回総合フィールドワーク(歴史)
皇學館中学校

7面
令和5年度収支決算報告

アクティブスチューデント 8面
清水楓真さん(現日3)が輪島市
町野町で支援ボランティアほか

発行・編集 学校法人皇學館 企画部
TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 文学部 教育学部
専攻科 現代日本社会学部
〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704
TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校
三重県伊勢市楠部町138
[高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代)
[中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)

見・解決に繋がる数理的推論力や構想力を備えた高度人材は自治体や産業界からもニーズが高い。こうした国が求める人材を三重県で発掘、養成して社会に送り出すことは、地域に根差した教育・研究を

「学力には3つの要素があります。1つ目は基礎的・基本的な知識・技能の習得、2つ目は知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成、3つ目は学習意欲の継続です。しかしながら、今の教育界において2つ目と3つ目の正當な評価を行うことは非常に難しいのが現実。我々はこれらの評価について探究活動を通して得ることができると考えています。そのため、探究活動を生徒に指導できる教員養成をめざします」。

「理科離れ」との言葉が聞かれるようになって久しいが、中松教授はこの課題についても「探究活動」が突破口になりうるという。

「これまで我々理科の教員は、まさにこの『理科離れ』という大きな問題に対峙してき

掲げる本学にとって、もっとも重要な使命だ。また、県南部に位置する本学が学問分野を広げることにより、これまで県外に流出していた一定の理系人材をこの地に留めることができるといえる。

「理科教育のほかに、昆虫学・免疫学の専門家でもある澤准教授

「理科教員養成の意義について改めて教えてください」。

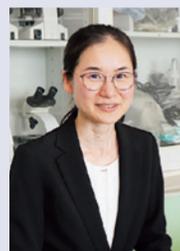
現在、すべての高等学校で探究活動(総合的な探究の時間)がカリキュラムに組み込まれ、生徒が自分で課題を見つけて解決する取り組みをしています。この活動を理科の観点で指導できる力を持った教員が求められています。この活動を通じて、探究活動へのサポートを近隣や附属の高校から依頼され、私を含む複数の教員が行っています。

「理科教員養成の意義について改めて教えてください」。

聞きたい 知りたい 理科教員の魅力とは?

理科教育の必要性や理科教員の魅力について、「理科教育法」を指導する教育学科の澤友美准教授と、「中学校教諭二種(理科)免許取得プログラム」*2を履修している大学院修士課程教育学専攻2年の二宮功至さんに話を伺った。

●澤准教授
●二宮さん



理科教育学のほかに、昆虫学・免疫学の専門家でもある澤准教授

「理科教員養成の意義について改めて教えてください」。



Culture & Sports カルチャー&スポーツ

東西伝統校を撃破し 3回戦進出

全日本学生柔道優勝大会

5月19日に行われた東海学生柔道夏季優勝大会において本学柔道部(男子7人制)が3年ぶりに優勝。この結果を受け、6月22日・23日に日本武道館で開催された全日本学生柔道優勝大会への出場権を獲得した。

大会初日、拓殖大学との1回戦は先鋒・南大志選手の引分けに始まり、次鋒・五将・中堅・三将と勝利。副将は残念ながら敗れたものの大将戦で勝ち、5-1と圧倒的な強さを見せ快勝した。

2回戦は同志社大学と対戦。先鋒の井野川幹太選手が反則勝ちでリードすると、次鋒・三将で一本勝ち。副将は優勢勝ちとなり、4-2で3回戦に進出した。



悔しさをバネに次戦に向け稽古に励む

対 拓殖大学 対 同志社大学 対 筑波大学
先鋒 南大志(現日3) 井野川幹太(現日1) 吉田好喜(教育4)
次鋒 井野川幹太(現日1) 南大志(現日3) 南大志(現日3)
五将 吉田好喜(教育4) 小川司瑛(現日1) 若谷怜(教育3)
中堅 若谷怜(教育3) 金山剛史(教育4) 井野川幹太(現日1)
三将 中西莞二(教育2) 中西莞二(教育2) 中西莞二(教育2)
副将 井上寛仁(教育1) 宮崎楓也(現日4) 堀内綾斗(現日4)
大将 宮崎楓也(現日4) 若谷怜(教育3) 宮崎楓也(現日4)

ポテンシャルを考えると非常によくやっただと思う。もちろん課題は山積しているが、これまでやってきたことを信じてまたさらに次の全国大会でも力を発揮できるように、日々精進を続けたい」と雪辱を誓った。

2年ぶり7回目の本戦出場

全日本大学駅伝東海地区選考会

6月22日にマルヤス岡崎龍北スタジアムで行われた第56回全日本大学駅伝対校選手権大会東海地区選考会において本学駅伝競走部が1位となり、11月3日(日)祝に開催される本大会に2年ぶり7回目となる出場を決めた。選考会は10000メートルを全4組、各組2名が走り、計8名の合計タイムを競う。昨年の本大会成績に基づき、東海地区の出場枠は1枠のみ。今回の選考会には17大学が参加した。



本大会出場を決め笑顔の選手たち

第56回全日本大学駅伝東海地区選考会総合結果
順位 大学名 合計タイム
1位 皇學館大学 4:10:53.62
2位 愛知工業大学 4:12:44.16
3位 岐阜協立大学 4:13:06.92
4位 中京大学 4:14:05.85
5位 三重大学 4:26:03.55
6位 中部大学 4:28:18.97
7位 岐阜大学 4:29:31.43
8位 至学館大学 4:35:38.07
9位 日本福祉大学 4:36:09.94
10位 愛知大学 4:37:13.88
11位 静岡大学 4:37:16.76
12位 愛知教育大学 4:42:21.37
13位 東海学園大学 4:55:38.16

寺田夏生監督は「全日本に向けて、ここからまたチーム一丸となり伊勢路で力強い走りができるようにしっかりと準備していきたい」と意気込んでいる。4年生の岩島選手は「昨年選考会で負けてしまい、連続出場が途絶えてから、この1年間はしっかりと目標に選手全員で取り組んできた。選考会では選手一人ひとりが役割を果たすことができた。本戦では応援してくれる方々に勇気を与えられるような走りになりたい」と決意を新たにしていた。

卒業記念品の寄贈

令和5年度卒業生

令和5年度卒業生(本学学部生一同)寄贈の記念品が活用され、学生から感謝の声が上がっている。

クラブやゼミ活動など学生の学外活動に使用する8人乗りステップワゴンのほか、学生の休憩場所として図書館にハイカウンター、椅子15脚が設置された。



学生は「4人がけのテーブルと違い、カウンターテーブルは一人で気軽に利用できるのので助かる。コーヒーなど飲みながら外の風景を眺めてゆっくりできる」と話した。

卒業生の皆さまの支援に感謝しながら、充実した学生生活に活用させていただきます。

キクイチ分室にて書籍を委託販売

皇學館大学出版部

外宮参道沿いのキクイチ分室にて皇學館大学出版部の一部書籍を委託販売している。



昨秋オープンしたキクイチ分室はコミュニティスペースとカフェを併設した新たな観光交流拠点。伊勢の文化や神宮に関する書籍を取り扱っており、本学出版部は『中世伊勢神宮の信仰と社会』定価1,575円(税込)、『伊勢の式年遷宮 諸祭・行事』定価314円(税込)、『伊勢志摩のくらし今昔』定価404円(税込)などを委託している。

ぜひお立ち寄りください。

キクイチ分室(伊勢菊一)

伊勢市本町6-4 シャレオ・サエキ2階 11:00~17:00/月火定休



問合せ●皇學館大学出版部 TEL 0596-22-6320



書籍のご注文は、ホームページまたはお電話にてご注文ください。

企業内々定者報告会を春学期に初開催

6月19日、231教室で3年生を対象に就職ガイダンス「企業内々定者報告会」を実施した。



3年生の早い段階から就活に取り組み、志望企業から内々定を得た4年生によるパネルディスカッションで、春学期開催は初。

就職準備に関する質問では企業のインターンシップ等について、夏と秋冬では内容が異なり、学生を見る観点が違うといった話や、参加するとホームページには載っていない情報を得られるだけでなく、職場や社員の雰囲気や、早期選考・説明会の案内が届くなどメリットが多いこと、説明会では資料の配布がない場合も多いのでメモ用紙は必須等、就活の現場がよくわかる体験談が語られた。

自分が何を重要視するか明確にしておかないと企業が選べないなど、具体的に的確なアドバイスに参加した学生たちは熱心に耳を傾けていた。

ご寄付のお願い

お問合せ先●教学振興会事務局 TEL 0596-22-6313

皇學館では、教育・研究の充実等に活用させていただき寄付金を募っております。各寄付の趣意をお汲み取りいただき、何卒本学の教育・研究振興にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳しくはこちら▶



教学振興会
法人 1口 20,000円
個人 1口 5,000円

未来の日本を担う人材を育成するため、大学・高校・中学では教育研究活動、学生・生徒への修学支援活動、国際交流活動、地域社会貢献活動など多彩な教学振興活動を行っております。皆様の熱意あるご支援とご協力をお願いします。

大学強化指定クラブ協賛金
法人 1口 10,000円
個人 1口 3,000円

大学では、駅伝競走部、柔道部を強化指定クラブとし、全国で活躍できる選手の育成に努めております。全国大会に出場する両クラブの競技力向上のため、皆様の協賛金への協力をお願いします。

皇學館大学 高校 法人 1口 2,000円
クラブ応援メッセージ募金 個人 1口 1,000円

学生・生徒のクラブを指定し、ご支援いただく募金です。指定先のクラブの活動強化・充実に役立てられます。クラブへの応援メッセージも受け付けております。皆様の熱いメッセージと募金をお願いします。



6月20日に行われたクラブ応援メッセージ募金授与式

【訂正とお詫び】 K-らいふ(全学一体)第170号に掲載の教学振興会ご入会者芳名に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

木戸馬場八幡宮様 ▶ 本戸馬場八幡宮様

開催のご案内

皇學館大学「地(知)の拠点」10周年シンポジウム

伊勢志摩で共に暮らし続けることのミライをかんがえあうシンポジウム2024

令和6年9/8日 10:30~17:00

対面・オンライン 参加無料 要事前申込

本学の「伊勢志摩定住自立圏共生学教育プログラムによる地域人材育成」は文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」としての採択から今年で満10年を迎えます。この間、多くの学生が3市5町(伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町・明和町)をメインフィールドに自治体、地域の方々とさまざまな地域課題の解決に取り組んできました。シンポジウムではこれまでの歩み、内容を総括し、次の10年に向け、伊勢志摩のミライについて考え合います。

Table with 2 columns: 午前の部 (Opening, 10:00-10:30) and 午後の部 (シンポジウム, 13:00-17:00)

会場 ● 皇學館大学 621教室 (6号館2階) ほか 駐車スペースに限りがありますので、公共交通機関でのご参加をお願いします。

お申込みは、こちらのフォームから。一般の方もぜひご参加ください!

問合せ ● 地域課題学修支援室 TEL 0596-22-8542

Regional Collaboration 地域連携

県知事・伊勢市長と学生が円卓対話



前列左から大西さん、一見知事、鈴木市長、河野学長、後列左から織田さん、松野さん、中村さん、細川さん

「知事と県民との円卓対話」が本学記念館で行われ、一見勝之三重県知事、鈴木健一伊勢市長と学生5名がCLL活動や地域の課題などについて話し合った。

CLL活動や伊勢市、三重県の活性化について率直に意見を交わした。

会の始まりに際し一見知事は、「円卓」の名称は「アーサー王と円卓の騎士」に由来すると説明。立場や年齢の違いに関わらず、三重県、伊勢市をより良くするため自由に発言し合っているという。

CLL活動や地域課題について意見交換

7月12日、「知事と県民との円卓対話」が本学記念館で行われ、一見勝之三重県知事、鈴木健一伊勢市長と学生5名がCLL活動や地域の課題などについて話し合った。

活動が課題発見力を磨く場に

り組む「リニアインパクト最大化プロジェクト」についてそれぞれの内容や苦労、やりがい

語った。

鈴木市長は「まさかリニアに取り組んでいる方がいるとは」と多様なテーマが扱われていることに驚いた様子で、「皇學館の在学生在がギフトやオリジナルグッズでOB・OGに訴求する点も面白いマーケティング。頑張っていたほしい」と激励した。



CLL活動に取り組む学生への期待を語る一見知事(右から4人目)と鈴木市長(同5人目)

次に、学生らを取り組んでいるCLL活動を紹介。中村うたさん(国史3)は「CLL活動運営学生スタッフ、細川真奈さん(国文2)は「GIL Project」プロジェクト、織田夢叶さん(教育4)は伊勢市のごみ減量課と共に行っている「大学生による『大学生向けごみ分別啓発活動』」、松野笙子さん(現日4)は「皇學館オリジナルグッズ制作プロジェクト」、大西侑里さん(現日4)は三重県庁と取

り組む「リニアインパクト最大化プロジェクト」についてそれぞれの内容や苦労、やりがい語った。一見知事、鈴木市長のざつとばらんとした語り口に学生たちも緊張がほぐれたのか、時折笑い声も上がる和やかな雰囲気では進行。県外出身の学生から見た三重県の印象や県内の交通事情、地域課題などについて話し合いが行われた。また、卒業後の進路について一見知事は「仕

食にまつわる2件を採択 令和6年度 皇學館おかげキャンパスプロジェクト

5月22日に令和6年度「皇學館おかげキャンパスプロジェクト」の審査が行われ、審議の結果、2件が採択された。

みえのお米とお茶ええやんプロジェクト 令和6年6月1日~令和7年1月31日 担当教員●駒田聡子(教育学科 教授) 三重ブランドである伊勢茶と三重県が開発したブランド米「結びの神」を広く県民に知ってもらい、茶葉から淹れるお茶の良さ・利点や、冷めてもおいしい「結びの神」の良さを理解していただき消費拡大の一翼を担う。

お茶の木プロジェクト 令和6年6月1日~令和7年1月31日 担当教員●藤井恭子(現代日本社会学科 准教授) 皇學館内で学生・生徒と共に茶の木を育てることを通じて、学生・生徒への教育効果、郷土愛の醸成や地域活性化、茶農家の若い担い手育成、お茶の魅力発信、お茶の促進などの地域貢献、皇學館全体の活性化をめざす。

令和5年度は3件の受託研究を実施

受託研究とは学外諸団体等から研究・調査等の委託を受け研究を行い、その研究成果を委託先に報告するものである。令和5年度は三重県と2町から3件の研究委託を受けた。地域のシンクタンクとしての機能を一層高め、産官学の連携強化、研究を通じ社会貢献を図っていく。

玉城町明るい未来づくりに関する調査研究業務 研究担当者●池山 敦(教育開発センター 准教授) 契約相手先●玉城町 受託期間●令和5年4月19日~令和6年3月15日

地域活性化対策(宿田曾小学校再利用計画策定)支援業務 研究担当者●池山 敦(教育開発センター 准教授) 契約相手先●宿田曾地域活性化協議会 受託期間●令和5年6月1日~令和6年3月31日

過疎地域における人口急減による影響緩和に関する調査研究業務 研究担当者●池山 敦(教育開発センター 准教授) 契約相手先●三重県 受託期間●令和5年10月7日~令和6年3月22日

Academic アカデミック

令和6年度科研費に5研究が採択

令和6年度 科研費新規採択課題一覧

Table with 3 columns: 研究課題名, 研究種目, 研究代表者. Lists 5 research projects and their representatives.

国内最大規模の競争的資金制度である科学研究費助成事業(通称「科研費」)に本学の5研究が採択された。自由な発想に基づく研究の推進を目的とする「科研費」は人文社会科学から自然科学まで、すべての分野におけるあらゆる学術研究を対象としており、税金を財源とするためピア・レビュー方式(専門分野の近い複数の研究者による審査)によって厳しく、かつ高い透明性をもって評価され、新規の採択率は3割を切る。採択された研究テーマと代表者は以下の通り。

Event & Education イベント&エデュケーション

神道学科で榊プロジェクトが始動

「自分たちのご奉仕する神事の榊は自分たちで育てよう」をコンセプトに、神道学科が榊プロジェクトを開始した。



第63回神宮式年遷宮(2033年)を控え、改めて鎮守の杜の意義を学ぶ一環でもある。

6月13日にはプロジェクトのアドバイザーをご依頼している里山 zero-base の西野文貴さんと、「第二のふるさと創生協会」の高橋知明さんをお招きし、樹木観察と苗の鉢上げ、記念講演を開催した。

参加者は学内に自生するサカキやヒサカキを触ったり匂いを嗅いだりしながら違いを知り、スダジイやヒノキなどの植生から森の構成を理解することができた。また講演では日本古来の森づくりを世界に発信していく意義を共感できた。



「博物館取扱いビュッフェ」を開設

本学学芸員課程では国史学科・神道学科の学生が熱心に授業に取り組んでいる。3年生から始まる「博物館実習」では博物館資料の取扱いや展示の企画などについて実践的に学ぶが、限られた授業時間内で美術品の取扱いに習熟するのは難しい。スポーツ同様、常に練習することが技術の向上に繋がるため、好きな時に資料の取扱いの練習ができるよう、「博物館取扱いビュッフェ」コーナーが図書館3階に開設された。



館内であれば自由に移動もできる。田本浩基さん(国史2)は、「1、2年生の間は実践的なことをする機会がないので、いい取り組みだと思う。掛け軸の掛け方、紐の結び方など特徴的なものが多いので、気軽に練習できる点ありがたい」と話した。学芸員課程の履修生や資料に興味のある方はぜひ活用を。



国史学科ではInstagramで情報発信しています。ぜひフォローしてね!



初めの試みとなったゼミ活動紹介では参加者から学生への質問が相次いだ。さらに、七夕開催となった7月7日の「未来発見DAY」では、「未来発見セミナー」と題し、神職、教員、公務員などさまざまな分野で活躍中の本学卒業生を中心とした方々に、仕事のやりがいや、学生時代の思い出・準備しておくべきことなどをお話していただいた。来場者の皆さまに、入学してから就職するまでの学生生活をイメージしていただくことができた。



わかりやすく説明する生徒

また、両日とも各学科教員による模擬講義や美術品の取り扱いを学ぶ体験コーナーなど、本学での学びを体感していただく機会となった。次回は8月10日(土)・11日(日)。皆さまのご参加をお待ちしています。

皇學館大学では6月と7月にオープンキャンパス2024を開催。草葉の緑が鮮やかとなった6月9日の「大学発見DAY」では、小雨の降る中、200名を超える高校生が参加した。初の試みとなったゼミ活動紹介では、教員とゼミ生と一緒に教壇へ立ち、ゼミ活動の楽しさを伝えた。学生によるスライドを用いた発表や、参加者の質問にゼミ生が答えるなど、学科ごとに多様な形式で紹介が行われた。大学での学びの醍醐味であるゼミ活動について、知ってもらえる機会になったのではないだろうか。

さらに、七夕開催となった7月7日の「未来発見DAY」では、「未来発見セミナー」と題し、神職、教員、公務員などさまざまな分野で活躍中の本学卒業生を中心とした方々に、仕事のやりがいや、学生時代の思い出・準備しておくべきことなどをお話していただいた。来場者の皆さまに、入学してから就職するまでの学生生活をイメージしていただくことができた。



未来発見セミナーにて熱心に耳を傾ける来場者たち

実際の学びを体感できる機会に オープンキャンパス2024

第1回オープンスクール2024 皇學館で楽しもう！を開催

皇學館中学校

6月23日に今年度1回目となるオープンスクール「第1回オープンスクール2024」皇學館で楽しもう！が開催された。

学校長挨拶から始まり、生徒による学校説明や英語・社会・算数の体験授業が行われたほか、制服展示ブースや学校生活動画視聴ブースが設けられ、皇學館中学校をよりよく知ってもらえる内容となった。

学校説明では代表生徒2名が本校の特色や学校生活を小学生にわかりやすく説明。体験授業の「社会」では魅力的な修学旅行のプランをグループで考え発表する課題解決学習が、「英語」ではタブレット端末を使ってネイティブ講師とマンツーマンで会話するオンライン英会話が行われた。「算数」も含



オンライン英会話を体験

め、どの体験授業も多くの児童が楽しむ様子が見られ、盛り上がりがあった。次回は9月1日に「第2回オープンスクール2024」皇學館を知ろう！が実施される。高校との合同開催で皇學館のスクールメリットを感じ取れる内容となっているのでぜひご来校ください。

『皇學館高等学校60周年 中学校45周年記念誌』を発売



両校の発展の軌跡と今の姿を多角的に捉えた『皇學館高等学校60周年 中学校45周年記念誌』過去から未来へ』が発刊された。編集にあたっては本学名誉教授(元皇學館高等学校副校長)の田浦雅徳氏、高等学校の富田有香教諭、中学校の大西正紀教諭を主担当に中高大の教職員が多数協力し、高校の在校生も編集業務に携わるなど、まさに「全学一体」で編まれた記念誌となった。大学附属図書館にて閲覧可能。

高校生が初参加! フィールドワーク・オープンキャンパス 文学散歩 開催

国文学科主催



『潮騒』では監視的哨(旧陸軍省が砲弾の着弾点を観測した施設)で新治が焚き火を飛び越え初江と抱き合う重要な場面が描かれる



多彩な情報を発信中!

『潮騒』の舞台を五感で味わう
国文学科4年 西潟 史有香
今回の文学散歩は神島を訪れた。神島は三島由紀夫『潮騒』の舞台となった地であり、柿本人麻呂が「潮騒に伊良波の島辺 漕ぐ舟に 妹乗るらむか荒島廻を」と詠んだ島であるとされている。今年国文学科の学生に加え、初めて高校生が参加する文学散歩であった。



八代神社や神島灯台など、物語の舞台が今も残る

神島に到着後、三島由紀夫が滞在した寺田家を訪ね、執筆時に使用した机や映画のポスター等『潮騒』にまつわる品々を拝見した。その後、八代神社、神島灯台、監視的哨跡と巡った。『潮騒』の舞台となった場所を実際に歩き、先生方の解説を聞くことで物語の理解が深まった。特に監視的哨跡は雨天だったことが相まって、新治と初江の将来を約束するシーンを彷彿させた。また、カルス地形や古里の浜といった神島の神秘的な自然を見ることができた。神島を一周するようなルートで歩き、山道や階段の多さに驚きつつも島全体を堪能できる文学散歩であった。実際に舞台になった地を歩くことで、活字だけでは想像しにくかった物語の場面を立体的に五感で味わうことができた。

中大連携で発展した学びに

第2回総合フィールドワーク(歴史)

5月9日、第2回総合フィールドワークを実施した。今回も各学年を縦割り班に分け、「豊受大神宮別宮 月夜見宮」「尾崎弔堂記念館」「賓日館」を目的地として順序を違えて見学した。「月夜見宮」においてはクスやケヤキ、スギなどが茂る神秘的な境内のなか、生徒たちは知見を深めた。「尾崎弔堂記念館」では普通選挙の実現や健全なる公民の育成に生涯を捧げた「憲政の神」の足跡を学んだ。また、弔堂香風会長・皇學館大学名誉教授の田浦雅徳氏から『「憲政の神」尾崎行雄とその演説 一弔堂はレコードで何を訴えたのか』との演題でご講演をいただき、その一生を時系列で学ぶと共に、蓄音機を用いて当時の演説を聞く貴重な体験もした。「賓日館」においては皇學館大学国史学科の長谷川怜准教授より、近代における二見の発展や資料から賓日館の歴史を学ぶなど、中大連携の性質も兼ねた総合フィールドワークとなった。



月夜見宮



尾崎弔堂記念館



賓日館

【1年生】尾崎弔堂記念館では尾崎行雄さんについて詳しく教えてもらった。何回も当選して、初めて落選したのが95歳くらいだったと知った時、それだけ国民に支持され、すごい人だったのだなと感じた。

【2年生】行ったことのない賓日館に今回のフィールドワークで行けてとても嬉しかった。中は、昔に建てられたとは思えないくらい綺麗だった。

【3年生】賓日館では二見の由来など伊勢に関する知識がより深まった。2年生の時に行った御塩殿とも関係があるということが印象に残った。蓄音機から流れる尾崎弔堂の声はとても美しかった。月夜神宮では手水舎での洗い方を正しく実践できた。

尾鷲・熊野で産業体験

1年生宿泊研修

5月23日、24日と1泊2日で、1年生が尾鷲・熊野方面へ宿泊研修に行った。豆あじの干物作り体験や丸太切り体験、トマト収穫体験などを実施し、三重県の産業に触れ、学ぶことができた。また、これらの体験を通して、クラスの仲をより一層深めることができた。



【生徒の感想】

- 豆あじを自分の手でさばく体験は初めてで、驚きがたくさんあった。私たちが日々おいしい魚を食べられるのは、毎日大変な作業をしてくださっている方々のおかげだと改めて実感できた。
- 最初はのこぎり、次にチェーンソーを使って丸太切り体験をした。普段はできな

い経験なのでとても嬉しかった。自分たちで切った丸太は土産として持ち帰ることができた。大事に使いたい。

- トマトの収穫体験では甘くてみずみずしくおいしいトマトを育てるための栽培方法を教えていただいた。ビニールハウスの中はとても暑く、トマト作りの大変さがよくわかった。

名古屋港水族館へ合同遠足

6月21日、全校合同による名古屋港水族館への遠足を実施した。午前中はグループに分かれ、さまざまな水生生物を觀賞。イルカショーでは、イルカたちが織り成す迫力満点のパフォーマンスに生徒たちは大いに満足した様子だった。午後には担当者の方から『水族館の仕事についてのレクチャー』と題し、「生物の研究」や「種の保存」も担う水族館の研究機関としての側面や水族館職員ならではの苦労ややりがいについてお話いただいた。生徒たちは真剣な眼差しで聞き入り、最後の質問コーナーではたくさんの生徒が質問していた。たくさんの思い出と知識が得られた一日となった。



【生徒感想】2つのことが心に残った。まず水族館の仕事がハイテクな機械ではなく、人力によるものの方が多いこと。そこにはいろいろな工夫やアイデアがあり、とても勉強になった。もう一つは「水族館の意義」だ。ただ人々に展示として生物を見せるだけでなく、生物を取り巻く実態や現状を伝える意図があることがわかった。

高等学校

2年生が北海道修学旅行を実施

2年生が3泊4日の日程で北海道へ修学旅行に赴いた。先発組は6月8日～11日、後発組は同月9日～12日。生徒たちは北海道の自然風土を満喫しながら仲間と語り、また領土問題についての認識を深めるなど有意義な時間を過ごしたようだ。以下に生徒の感想を抜粋して紹介する。



学んだ知識と繋がる

7組 久保光咲

北海道という三重から離れ、全く異なる生活、生態系、歴史がある所を訪れて、さまざまなことを学んだ。歴史や地理の授業で学んだことや北海道の歩み、気候、特産品などが繋がって、学んだ知識が無駄じゃないとわかって楽しかった。ガイドさんの話はためになるものが多く、三重県の話も折り混ぜながら教えてくだ

さったので印象に残っている。修学旅行に行く前は、正直、思い出作りという気持ちが強かったけれど、北海道の歴史や特色を学び、おいしいものを食べて、自然に触れて、優しい人たちと出会って、すごく良い経験になった。この旅行で学んだことを今後にも生かしていきたい。

忘れられない思い出に

8組 西村果林

1日目は初めて飛行機に乗り、空港の大きさや飛行機の速さ、高所での感覚はどれも新鮮で、将来航空関係の仕事に就きたいと思っている私にとってとても貴重な体験だった。ノーザンホースパークでは友達3人で自転車に乗り、小さなトラブルが何度も起きたのが楽しかった。2日目はバス移動が多かったが、北海道特有の植生、特に白樺の木や広い草原は、どれだけ外の景色を眺めてい

てもあきなかった。北方領土についての講話は内容よりも話されている様子や想いが強く、実際に見える距離に島があったのに深刻さを感じた。3日目は北海道神宮で正式参拝を体験して、離れた場所でも伊勢と同じような文化があるのを少し嬉しく感じた。ホテルでは友達と趣味の話をして、仲の良い友達と大好きな歌手が同じだったことを知って、共通の話ができたのが本当に嬉しかった。最終日は、空港で食べたいと思っていた海鮮を食べて、家族が喜びそうなガラスの器やお菓子を選んだのがとても楽しく、幸せな時間だった。北海道の景色や友達との思い出は忘れられないと思う。



甲子園予選、惜しくも2回戦敗退

皇學館高等学校野球部



力投を見せた山口颯太選手

6安打を放つもあと一歩及ばず涙を飲んだ

第106回全国高等学校野球選手権三重大会が7月5日に開幕。本校野球部は翌6日の1回戦で桑名北高校に7対4で勝利し、次戦へと駒を進めた。



熱い声援で試合を盛り上げる

7月19日、ダイムスタジアム伊勢で行われた2回戦の相手は高田高校。1回裏、本校は西大翔選手のセンターへのタイムリーヒットで1点を先制するも、5回表で2点を入れられ逆転を許す。1回戦と同じ展開となり、逆転を信じ応援にも熱が入る中、7回裏には平一惺選手のタイムリーベースヒットで同点に追いついたものの、8回表に1点を追加され、2対3で惜しくも2回戦敗退となった。

精いっぱい戦った選手たち。甲子園への夢は後輩に託す。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安
高田	0	0	0	0	2	0	0	1	0	3	5
皇學館	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	6

中学校

令和5年度 収支決算報告

学校法人皇學館の令和5年度決算は、令和6年5月28日開催の理事会で承認されましたので、ここにその内容を報告致します。

なお、公式ホームページ(https://www.kogakkan-u.ac.jp)の大学概要～情報の公表「経営及び財務等に関する情報＝事業報告＝令和5年度」にて、法人設置の教育研究機関・学校法人の組織機構・入学生数・在籍者数・卒業生数・進路状況及び法人の事業報告書を、「経営及び財務等に関する情報＝財務情報」には財産目録、財務の概要等を公表しておりますので併せてご覧ください。令和5年度収支決算書は、以下のとおりです。



詳しくはこちら▶

1 資金収支計算書

この計算書は、企業会計でいえばキャッシュフロー計算書に相当するもので、当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容並びに、当該会計年度における支払資金(現金預金)の収入及び支出のてん末を明らかにしています。

令和5年度における資金収支計算書の収入の部合計及び支出の部合計は72億1千1百万円で、翌年度に繰り越す現金・預金(翌年度繰越支払資金)は、21億4千5百万円となりました。

資金収支計算書(法人全体)

令和5年4月1日～令和6年3月31日 単位：千円

科目	予算	決算	差異
収入の部			
学生生徒等納付金収入	3,736,787	3,730,068	6,718
手数料収入	63,389	57,820	5,568
寄付金収入	97,571	116,816	△19,245
補助金収入	784,639	846,218	△61,579
資産売却収入	220	210	10
付随事業・収益事業収入	9,800	17,642	△7,842
受取利息・配当金収入	12,131	15,404	△3,273
雑収入	256,658	230,573	26,084
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	615,540	583,201	32,338
その他の収入	169,357	228,736	△59,378
資金収入調整勘定	△730,478	△763,874	33,396
当年度資金収入合計 ①	5,015,614	5,062,816	△47,201
前年度繰越支払資金	2,148,803	2,148,803	0
収入の部合計	7,164,417	7,211,619	△47,201
支出の部			
人件費支出	2,690,257	2,621,485	68,771
教育研究経費支出	1,186,474	1,196,961	△10,487
管理経費支出	462,158	423,720	38,437
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	68,503	77,213	△8,710
設備関係支出	176,479	155,097	21,381
資産運用支出	507,940	506,976	963
その他の支出	123,725	185,337	△61,612
[予備費]	(0)		
資金支出調整勘定	△89,684	△100,707	11,023
当年度資金支出合計 ②	5,145,851	5,066,085	79,766
翌年度繰越支払資金	2,018,566	2,145,534	△126,968
支出の部合計	7,164,417	7,211,619	△47,201
当年度資金収支差額 ①-②	△130,237	△3,269	△126,968

資金収支計算書の決算額を3つの活動区分ごとに区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにする活動区分資金収支計算書の「教育活動資金収支差額」は、646,309千円の黒字となりました。

【注1】記載金額は千円未満を切り捨てて表示しています。
【注2】貸借対照表の注記は省略しています。

2 事業活動収支計算書

この計算書は、企業会計でいえば損益計算書に相当するもので、学園の経営状況を表し、当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。

事業活動収支を「教育活動収支」「教育活動外収支」「特別収支」に区分し、収支を経常的なものと臨時的なものに、経常的な収支を教育活動と教育活動外に分けて把握することができます。令和5年度の「基本金組入前当年度収支差額」は2億7百万円の黒字となりました。

事業活動収支計算書(法人全体)

令和5年4月1日～令和6年3月31日 単位：千円

科目	予算	決算	差異
事業活動収入の部			
学生生徒等納付金	3,736,787	3,730,068	6,718
手数料	63,389	57,820	5,568
寄付金	49,571	65,669	△16,098
経常費等補助金	767,405	824,045	△56,640
付随事業収入	9,800	19,596	△9,796
雑収入	260,846	234,196	26,649
教育活動収入計	4,887,798	4,931,396	△43,598
事業活動支出の部			
人件費(退職給与引当金繰入額)	2,691,172(42,207)	2,625,807(45,612)	65,364(△3,405)
教育研究経費(減価償却額)	1,697,751(511,277)	1,714,331(516,461)	△16,580(△5,184)
管理経費(減価償却額)	482,168(20,010)	452,039(29,131)	30,128(△9,121)
徴収不能額等	0	0	0
教育活動支出計	4,871,091	4,792,178	78,912
教育活動収支差額	16,707	139,218	△122,511
教育活動外収入の部			
受取利息・配当金	12,131	15,404	△3,273
その他の教育活動外収入	0	0	0
教育活動外収入計	12,131	15,404	△3,273
教育活動外支出の部			
借入金等利息	0	0	0
その他の教育活動外支出	0	0	0
教育活動外支出計	0	0	0
教育活動外収支差額	12,131	15,404	△3,273
経常収支差額	28,838	154,622	△125,784
特別収入の部			
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	73,434	82,129	△8,695
特別収入計	73,434	82,129	△8,695
特別支出の部			
資産処分差額	29,411	29,202	208
その他の特別支出	0	0	0
特別支出計	29,411	29,202	208
特別収支差額	44,023	52,927	△8,904
[予備費]	20,000		20,000
基本金組入前当年度収支差額	52,861	207,549	△154,688
基本金組入額合計	△124,188	△118,767	△5,420
当年度収支差額	△71,327	88,782	△160,109
前年度繰越収支差額	△2,859,708	△2,859,708	0
基本金取崩額	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△2,931,035	△2,770,926	△160,109
【参考】			
事業活動収入計	4,973,363	5,028,930	△55,567
事業活動支出計(予備費含む)	4,920,502	4,821,380	99,121

教育研究活動に関する寄付金(教学振興会、協賛員、皇學館サービス、専の会、高等学校後援会)となります。

教育活動に関する経常費等補助金となります。

減価償却額教育研究経費及び管理経費の合計は、5億4千5百万円となりました。

教育活動収支差額は、1億3千9百万円の黒字となりました。

教育活動収支差額及び教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は1億5千4百万円の黒字となりました。

施設設備に関する寄付金(専の会、高等学校後援会からの寄付金)と施設設備への補助金、機器備品や図書等の現物寄付等となります。

建物、構築物、機器備品、図書の資産処分となります。

教育活動収支差額及び教育活動外収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額は2億7百万円の黒字となりました。

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を差し引いた当年度収支差額は8千8百万円の黒字となりました。

3 貸借対照表

この計算書は、当該会計年度末における資産及び負債、純資産の内容及び在り高を明示し、学園の財政状態を明らかにすることを目的としています。

固定資産については、「有形固定資産」「特定資産」「その他の固定資産」の3つの中科目を設けて表記しています。

令和5年度においては、資産は増加し負債は減少しました。結果、純資産は2億7百万円の増加となりました。

貸借対照表

令和6年3月31日 単位：千円

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	17,945,066	17,778,934	166,132
有形固定資産	10,548,210	10,883,652	△335,441
土地	551,346	551,349	△3
建物	6,833,282	7,103,651	△270,368
構築物	438,083	464,865	△26,781
教育研究用機器備品	571,448	643,390	△71,942
管理用機器備品	37,414	26,901	10,513
図書	2,072,785	2,064,843	7,941
車両	43,849	28,651	15,198
特定資産	7,267,419	6,765,278	502,141
第3号基本金引当特定資産	162,040	162,040	0
退職給与引当特定資産	1,233,365	1,233,365	0
施設維持引当特定資産	3,328,674	3,328,674	0
学園財政調整引当特定資産	1,997,313	1,500,000	497,313
学生寮施設維持引当特定資産	14,160	11,040	3,120
教学振興基金引当特定資産	150,000	150,000	0
穂田学術振興基金引当特定資産	71,446	67,591	3,855
津田学術振興基金引当特定資産	299,759	302,104	△2,344
奨学金引当特定資産	10,660	10,462	197
その他の固定資産	129,436	130,004	△568
電話加入権	3,959	3,959	0
有価証券	109,596	109,596	0
差入保証金	5,016	5,016	0
預託金	10,000	10,000	0
長期貸付金	865	1,433	△568
流動資産	2,565,746	2,666,831	△101,084
現金預金	2,145,534	2,148,803	△3,268
補助活動支払資金	173,813	187,150	△13,337
研修旅行費等預り資産	99,306	152,217	△52,911
未収入金	120,021	156,521	△36,500
販売用品	5,273	2,507	2,765
短期貸付金	718	946	△228
前払金	21,079	18,684	2,395
資産の部合計	20,510,813	20,445,765	65,047
負債の部			
固定負債	1,018,608	1,042,228	△23,619
退職給与引当金	1,018,608	1,018,559	49
長期未払金	0	23,668	△23,668
流動負債	855,165	974,048	△118,882
未払金	105,691	103,475	2,216
前受金	583,201	643,853	△60,651
預り金	166,272	226,720	△60,447
負債の部合計	1,873,774	2,016,276	△142,502
純資産の部			
基本金	21,407,965	21,289,197	118,767
第1号基本金	20,915,925	20,797,157	118,767
第3号基本金	162,040	162,040	0
第4号基本金	330,000	330,000	0
繰越収支差額	△2,770,926	△2,859,708	88,782
翌年度繰越収支差額	△2,770,926	△2,859,708	88,782
純資産の部合計	18,637,039	18,429,489	207,549
負債及び純資産の部合計	20,510,813	20,445,765	65,047

イベントのご案内 皇學館 DAY 2024 (皇學館大学・高等学校・中学校合同) 9/16(月祝)

学び体験プログラム & 進学相談会

三重県総合博物館 MieMu 10:00～15:30



時間	2階 実習室	対象	3階 レクチャールーム	対象	3階 学習交流スペース付近	交流活動室	交流展示室
10:00	昆虫の中にあるハチって知ってる?(実験)	小・中 40名(先着)	【歴史講座】長谷川怜准教授 近代を聴くー音機とレコードでたどる歴史	一般 70名	皇學館大学・高等学校・中学校 進学相談会	クイズラリー(基本展示内) 参加費あり	なりきり神職体験(大学) 対象/小学生以下30名
10:30							
11:00	ペットボトル ジャンブル(制作)	小・中 40名(先着)	算数すごろくゲームで遊ぼう	小 50名(先着)			
12:00							
12:30							
13:00	三重の米とお茶えやん(料理)	小・中 40名(先着)	色紙を使って スーパー紙飛行機を作ろう	小 50名(先着)			
13:30							
14:00							
14:30	昆虫の中にあるハチって知ってる?(実験)	小・中 40名(先着)	色紙を使って スーパー紙飛行機を作ろう	小 50名(先着)			
15:00							
15:30							

※学び体験プログラムの参加には整理券が必要です(当日配布・先着順)。
※実施時間が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

イベントに関する問合せ ● 皇學館大学企画部広報担当 TEL0596-22-8600

皇學館高等学校 吹奏楽部 第17回 定期演奏会

三重県文化会館 大ホール 15:00〔開場〕 16:00〔開演〕～18:45〔終演予定〕 入場料 1,000円

チケットの販売は8月中旬に高校HPにてお知らせします。



Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

清水楓真(現日3)さんが輪島市町野町で支援ボランティア DWAS-JAPAN能登半島コミュニティサポートワークキャンプ*

本学が加盟する日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の災害支援活動「DWAS-JAPAN 能登半島コミュニティサポートワークキャンプ2024」に清水楓真さん(現日3)が参加。第2期となる4月26日から29日にかけて、能登半島地震の被災地のひとつ輪島市町野町で災害支援ボランティア活動を行った。主に行政では介入できない住宅での片付けやゴミの運搬を担った清水さん。土砂崩れで自宅が半壊し、隣家は全壊し住人がいまだ見つからない状況下で「自分たちだけがボランティアの手を借りて家の片付けをしてもらっていいのか」と涙ながらに話す被災者の姿に、「当初は家の中を早く片付けられればいいと考えていたが、気持ち

の整理がついていない方、複雑な状況の方がいることに気付いた。また、『助けに来ました』『頑張ろう』といった声掛けはただの自己満足になってしまうので、言葉選びにも気をつけた」と話す。「作業を終えると涙を流しながら『ありがとう』と言っていたが、力強く握手をしたときは自分も感謝の気持ちでいっぱいになりました。この活動を通して、自分の考えなどで勝手に決めつけず、心に寄り添う大切さを学びました」。

「テレビで見る世界とはまったく違う凄惨な現場を目の当たりにし、改めて地震の恐ろしさを感じた」と清水さん。一人でも多くの方がこの状況を知り、ボランティアに参加する人を増やしたいと、

所属している駅伝競走部のSNSを通じて発信している。

海に面する町野町は海鮮料理で名を馳せていたが、地震で生じた海岸隆起によって漁港としての機能を失ったといわれており、問題は山積みだ。清水さんは「ゴールするだけでなく、ゴール後についても考える必要性に気が付いた。現地でも多くの経験を生かして夢である消防士に向けての就職活動に励み、町野町の復興にも関わっていきたい」と話した。



座右の銘は「後悔先に立たず」。この言葉を大切に行動したいと話す

*DWAS(ディーワズ)はDisaster Welfare Assistance Studentの略で「災害時の福祉支援に取り組む学生たち」の意。

皇學館高校 陸上競技部 男女バドミントン部 弓道部 写真部 全国大会に向け意気込み 全国高等学校総合体育大会・総合文化祭

九州北部で7月21日(日)～8月20日(火)に行われる令和6年度 全国高等学校総合体育大会(インターハイ)「ありがとうを強さに変えて 北部九州総体2024」に陸上競技部11名、女子バドミントン部8名、男子バドミントン部8名、弓道部2名、7月31日(水)～8月5日(月)に開催の第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文2024」に写真部2名が出場する。代表選手が抱負を語った。

陸上競技部



後列左から三浦 響(2年)、倉井星碧(3年)、岡 秀磨(3年)、文珠榮太(3年)、宮村泰誠(3年)、吉村一步(3年)。前列左から田中大智(3年)、柳田晴哉(3年)、橋爪蓮翔(3年)、網谷 奏(2年)、向原悠斗(1年)

悔いのない競技にすることを誓う

私たち陸上競技部は7月末から福岡で行われるインターハイに出場します。去年のインターハイで悔しい思いをし、今年こそはと1年間必死に努力を続けてきました。まずは大会を開催、運営してくれる方々に感謝し、これまでの努力を忘れず、自分たちの持っている実力を存分に発揮し、戦い抜きたいと思えます。この大会に惜しくも出られなかった部員の方まで全力を出し切ります。いつもそばで私たちを支えてくれた家族、監督、コーチの方々への感謝の気持ちを忘れず、悔いのないよう競技することを誓います。そして、一人でも多くの入賞者を出すため頑張ります。

橋爪蓮翔

女子バドミントン部



後列左から吉居 鼓(3年)、前田愛心(3年)、森本麻愛(3年)、世古口来海(2年)。前列左から稲吉礼有(2年)、奥村空愛(2年)、酒井新菜(2年)、奥村紗羽(1年)

感謝の気持ちを勝利で恩返し

団体戦の出場は7年連続11回目となります。それぞれが良い結果を残せるように、チャレンジャー精神で最後まで諦めずに頑張ります。そして、私たちがここまで成長することができたのは顧問の先生をはじめ、コーチや保護者の方々の協力があったからこそだと思います。周りの方々への感謝の気持ちを勝利という形で恩返ししたいです。3年生は今大会で最後となるので悔いを残さず、1・2年生は次の一歩へ繋げられるようにチーム一丸となり、全力プレーで楽しみます。男女共々、応援をよろしくお願いいたします。

吉居 鼓(女子団体・個人)

男子バドミントン部



後列左から松本 准(2年)、林 仁成(3年)、清水貴耀(2年)、田中優羽(2年)。前列左から森 積喜(1年)、山下晃輝(1年)、佐藤敬仁(1年)、山口陽平(1年)

全国の舞台で成長した姿を

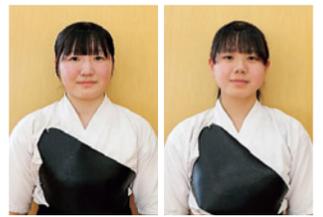
私たちは7月30日から佐賀県で行われるインターハイに団体戦、個人戦シングルス・ダブルスに出場します。団体戦は6年ぶり4回目の出場になります。私は昨年度個人戦シングルスに出場しましたが初戦で敗退し、悔いの残る大会となりました。この1年間、その悔しさを忘れず努力を重ねてきました。今回は団体戦もあり、全国の舞台で成長した姿を見せたいと思えます。最後まで諦めず戦い抜きますので、応援をよろしくお願いいたします。

松本 准(男子団体・個人)

弓道部

みんなの応援を武器にして

私は8月に長崎県で行われるインターハイに、3年生の濱口さんと個人戦で出場することとなりました。私たちは1年生の



深田乃愛(3年) 濱口夏穂(3年)

頃から全国大会出場を目標に日々練習に取り組んできました。皇學館高等学校弓道部はみんなで刺激し合うことで互いを高め合い、成長してきました。残念ながら団体での全国大会出場という目標は達成できませんでしたが、個人で2人も出場できることに感謝し、チームのみんなの悔しさを背負い、全力で頑張りたいと思えます。いつもそばで支えてくれた家族、先生、そして部員のみんなの応援を武器にし、最後まで皇學館らしさを忘れず、最高のパフォーマンスで、一本一本集中して優勝を勝ち取りたいと思えます。応援よろしくお願いいたします。

深田乃愛(女子個人)

写真部

受け継いだ入賞のバトンを次の代へ

私は3年生の太田さんと、8月1日から3日にかけて開催される全国高等学校総合文化祭岐阜大会に参加します。この大



田尻 奏(3年) 大田莉穂(3年)

会では生徒同士の交流会、撮影会、入賞作品の講評会があります。各県から選出されたさまざまな素晴らしい作品を自分の目で見て分析し、自身の技術向上につなげていきたいと思っています。これまで熱心に指導して下さった顧問の先生や、支えてくれた両親に感謝し、先輩方に繋いでもらった全国大会入賞のバトンを次の代に渡せるよう、さまざまなことを吸収したいと思えます。

田尻 奏